
好きの最後は。

+彩音+

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

好きの最後は。

【Nコード】

N3007I

【作者名】

* + 彩音 + *

【あらすじ】

わたしの名前を教えてください！
本当に？本当にわたしは如月恋未。
わからない、わたしの秘密。

ドタバタ騒動

【Ver.:恋未】

「……………」

うるさい…。うるさい、うるさい！

「もっつ、うるさあーい！！」

ドッターン！！

「お前が朝から怒鳴るから、俺がベッドから落ちるんだ…迷惑極まりない」

「んっ！なんで恋未^{れみ}の声で起きるのに、目覚ましだと起きれないんですか！！なんだか失礼です」

まったく、いつまでも起きないから。

それにしても、あの歳でベッドから落ちるなんて、何歳児の子供ですか！

しかも恋未が怒られてるし！

「「最悪」」

うぎゃー！

なんか調子狂うんですけど…。

「恋未はお子様染みてるよな…」

「お子様染みて馬鹿よりましです」

もう、なんでそんなこと言われなきゃいけないんですか！ムカつく！！

「お兄ちゃんに関わると、彼氏も出来なくなりますね…。学校に遅れますのでお先に、」

「俺は恋未かいると彼女が出来ない…」

恋未がいなくても、お兄ちゃんには一生彼女なんか出来ないし！！

人生の中でセックスも出来ないんじゃないの？

「あら、そう？」

ちよつと勝ち誇るような微笑みで見返した。

悠^{はるか}なんて、お兄ちゃんなんかじゃありません。

ナルシストがほざくなあ！！

「恋未っ！おはよう。恋未の今の気分は？」

「おはようございます。今日の気分は青一色です。爽快、爽快！！」

「また例のお兄さま？なんか大変そう」

でしょー、なんて言いながら、さっきから後ろで殺気がするんです
けどー！！

「あ、あのさ…俺のこと言ってるんなら、他で話してくれない？馬鹿
な妹の数少ない友達さん。ね？」

「あら、貴方が恋未のお兄さま？失礼、恋未は貴方よりも友達多い
ですよ。友達は学校中の男子生徒と学年中の女子、それから後輩で
す。ねえそうでしょう？皆様」

恋未の親友でもある琴音^{こひね}が問いかけると、その場にいた男子が一斉
に振り返った。

「…はい、もちろんです。琴音さん！！恋未サマは超大切な友達
です！！」「」

ありがとー。でもなんか、琴音のファンなのでは？

恋未の疑問もそっちのけで琴音は笑った。

「恋未のお兄さま、これでお分かりになりましたでしょうか？恋未
の人氣に、貴方は付いて行けないと思いますの。お諦めになったほ
うが宜しいかと存じます」

琴音、今日も勝ち誇ってる。

尊敬に値するが、今はこの視線が痛い！

何かすごく見られていますよ？

怖いよ、うちの学校の生徒さん！

「お兄ちゃん、取り合えず遅刻するので、」

「恋未のお兄さま、勝ち目のない勝負はしないほうが宜しいかと。」

貴方のプライドが傷付きますわよ？」

「ご忠告どうも、ほぼ全生徒が友達なんて聞いたことがない。やっぱり恋未は『怪物』だったんだ」

ち、血が……。頭に血が昇ります！！

すぐくムカつく、ウザイ。

「大丈夫？恋未。どう？琴音を甘く見るなっ感じてだよね？見ましたか、男子が声を合わせて『はい、もちろんです！！』って言ったとき、恋未のお兄さま、一瞬目が点になっていたの！！」

琴音は隣でケタケタと苦笑している。

ちよつと、琴音？

なんとなく目線が泳ぐんですけど！

なんですか、この睨まれてる感じ。

「ご、琴音？」

「なんですか、先輩」

琴音も、刺さんばかりの視線に気付いたらしい。

警戒をしながら、琴音は鋭い目付きで先輩を睨み付ける。

3年生が5人ほど、琴音をそっちのけで恋未を睨む。

そのまま呼ばれた先は、誰も入らない女子トイレだ。

(ごご、幽霊が出るって噂のところじゃん)

「ねえ、綾瀬さん。悠さんにあんな態度をとって許されるのかしら。

琴音さんでしたっけ？貴方も巻き添えをくらっってお可哀想」

「ねえそれさあ、恋未がどういう人かをわかって言っています？」

女子先輩の表情が一瞬曇るのが見えた。

恋未って、こんなに強い立場でしたっけ？

やだ！こっち見ないでえー！

そんなに見られても、何も出ませんよ！？

「と、とにかく、悠さんとのお話を避けてもらえます？貴方と悠さ

んじゃ、次元が違いますの」

何その、無理やりな言葉の付け方！

「聞いてませんでしたか？恋未が悠とどういう関係なのかって」

「あ、あのお？」

勝手に話を進められても困ります！

恋未はフラフラと視線を泳がせた。

あ、今先輩と目があつた。

あの人、怖いしー！

「か、彼女？」

「ふうん、よく恋未のことを調べてから来なきゃ駄目じゃないですか。そんな自信のない答えじゃ、説得力もないですし。恋未は、」
ああ、恋未のことは完全無視ですか…。

でも此処まで言われたら、恋未も黙っていられないかも。

「悠は恋未のお兄ちゃんです！！これ以上何か文句でもおありですか！？それと、3年生は2年生の階に来ては行けないのですが、ご存知で？」

「…うぬう…」

言うことが無くなったのか、先生に睨まれながら先輩たちは帰って行った。

「恋未！ナイスじゃない。最近多いわね、恋未が『悠さんに近づかないで』って言われるの」

「別にいいわよ、そのぐらい。悠はただのお兄ちゃんなんだから」
そうだよな、と言いながら、琴音はアハハツと笑った。

でも確かにお兄ちゃんはお兄ちゃんだし…。

そういえば、最近いろいろ聞かれるの…。

「もしかして…！」

「え？何、恋未」

お兄ちゃんってモテ期だったりして…！

騒ぎすぎもいけないなあ、でも。

「なんでもないです」

「れ、恋未？」

絶対にお兄ちゃんに彼女は出来ないと思っていたけれど、そうでもなさそう？

ちよつと楽しみ！

恋未は、ニコツと不気味な笑みを浮かべていた。

（面白そう！）

ドタバタ騒動（後書き）

読者さま、第1部を読みきつてくれて感激です！

そして、読者さまにお願いです。

未熟なわたしにアドバイスを下さい！

ご感想又はコメントを少しでも記入して戴けるとありがたいです！
宜しくお願いいたします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3007i/>

好きの最後は。

2011年1月16日04時51分発行